

New Products Review

これは買い!?
気になる新製品をいち早くテストする!



ダイナミックHTML対応ホームページ作成ソフト

Dreamweaver

MN128-SOHOの廉価版ダイヤルアップルーター

MN128-R



停電対策万全の多機能ダイヤルアップルーター

NetVehicle-fx3

TAでFAXが使える多機能コミュニケーションツール

RVS-COM



簡易動画やパノラマ撮影ができる35万画素モデル

QV-770



フルメタルボディで軽快なレスポンスが魅力

PowerShot A5

HTML化できる素材豊富なパブリッシングソフト

Publisher 98

エディター機能を充実させたメールソフト

NetMail



データベース一括管理のメールソフト

++ Mail Ver.2.0

ウェブ対応マルチメディアオーサリングツール

Emblaze Creator 2.5J



ダイナミックHTML対応ホームページ作成ソフト

Dreamweaver

Check!

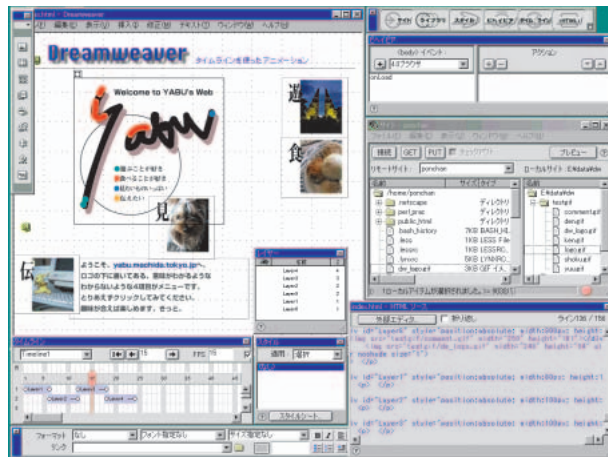
ダイナミックHTMLとCSSに対応
ビジュアルとテキストの2つの編集モード
HTMLエディターをバンドル

Dreamweaverは、ビジュアルモードだけでなく、テキストモードも備えている。そればかりか、手でタグを入れたHTMLファイルや他のホームページ作成ソフトで作ったファイルの編集も可。しかも、ダイナミックHTMLやカスケードスタイルシートまでサポートしている。

プロにも嬉しいラウンドトリップHTMLホームページ作成ソフトは便利だが、その反面融通性に欠けるのが難点だ。一からウェブサイトを作る場合はまだいい。ところがタグの使い方などにクセがあるため、別のソフトで作ったページを編集するのはほとんど不可能だ。マクロメディアのDreamweaverでは、こうした従来のホームページ作成ソフトの「欠点」が解消されている。というのも、ほかのソフトで作ったファイルを読み込めるからだ。

しかも、テキストエディターを使って手でHTMLタグを入れたファイルを読み込んでみるとよくわかるが、ソースコードのインデントもオリジナルのまま。マクロメディアでは、これを「ラウンドトリップHTML」と呼んでいる。

ダイナミックHTML(DHTML)とカスケードスタイルシート(CSS)に対応しているのもDreamweaverの特徴だ。DHTMLやCSSは、使ってみたくとも設定が難しいため、なかなか手が出せない。だが、Dreamweaverなら、メニューを選んだりアイコンをクリックしたりするだけで、DHTMLを使った動きのあるページやCSSを使った絶対座標の設定ができる。名称は同じだが、ネットスケープナビゲーター4.0とインターネットエクスプローラ4.0では、DHTMLの仕様がだいぶ違う。Dreamweaverはその点も配慮し、必要に応じて両方に共通する機能を使ったページやどちらか一方のブラウザに特化したページ、さらにDHTMLに対応していない両ブラウザのバージョン3.0でも表示できるページを作り分けることもできる。



CD-ROM収録先
CD-ROM【A】

WIN : Dreamw Win
MAC : Dreamw Mac



編集ウィンドウのほか、機能別にたくさんウィンドウがある。開きすぎるとデスクトップが煩雑になるので、必要なものだけ開こう。

試用レポート

① ビジュアルモードとテキストモードで自由自在にページ編集

正直いって、初めてDreamweaverを起動したときは面食らった。たくさんのウィンドウが開くせいか、何から始めたらいいのかわがつかなかったのだ。最近のソフトには珍しいモノトーンの地味な画面表示も、とっつきにくさを感じる要因だろう。が、それは最初のうちだけで、素っ気ない画面表示にもすぐ慣れた。

画像や水平野線、Javaアプレットなど文字以外のものを挿入するときは、編集ウィンドウ左の「オブジェクト」ウィンドウでアイコンをクリックし、さらに新しいオブジェクトを追加することもできる。署名ファイルや日付け表示用Javaスクリプト、アクセスカウンター用CGIスクリプトなど、よく使うものを登録しておくべし。

テキストを「レイヤー」化すれば、絶対位置を指定できる。これがCSSだが、画像などテキスト以外のオブジェクトもレイヤー化し、絶対位置を決められる。今までのようにテーブルを使わなくても、気に入ったレイアウトでページがデザインできるのだ。レイヤーは、複数重ね

て前後関係や位置をリアルタイムで変更することもできる。これがDHTMLの正体。Dreamweaverは、このDHTMLを利用してアニメーションを作ったり、マウスカーソルを重ねる、ボタンをクリックするといった「イベント」に応じて表示画像を変えるような「アクション」が設定できたりする。

Dreamweaverは、単に1ページのデータを編集するだけのソフトではない。サイト全体のリンクチェックやFTPサーバーへのアップロード/ダウンロードといったサイト管理機能も備えている。ウェブサイトに関するあらゆる作業に対応できるDreamweaverだが、まったく問題がないわけではない。高度な処理をしているせいか「重い」のだ。たっぷりRAMを載せた最新鋭の高速マシンでないとなら、特に遅いのがHTMLソースの編集だ。マクロメディア社はそれを承知しているようで、ウィンドウ版にはAllaire社の「HomeSite」、マッキントッシュ版にはBare Bones Software社の「BBEdit」がバンドルされている。Dreamweaverの「HTMLソース」ウィンドウはあくまで確認用で、テキスト編集は専用ソフトでと考えているらしい。(藪咲彦)



発売元	株式会社エヌ・ティ・ティ・テレコム エンジニアリング東京
価格	DSU なし 47,800円 DSU 付き 57,800円
問い合わせ	0120-128-037
付属品	ISDN ケーブル、10BASE-T ケーブル、 RS-232C ケーブル、RS-232C 変換コ ネクタ (PC98、Mac 用)
URL	http://www.sphere.ad.jp/te-tokyo/
URL	http://www.bug.co.jp/mn128/

写真はMN128-R/DSU。ボディサイズは223(幅)×50(高さ)×158(奥行き)ミリ。



上左からRS-232C、「HUB/PC」切り替えスイッチ、10BASE-Tポート。下左からAC電源ケーブル、U点極性反転スイッチ、ISDN U点、回線終端スイッチ、S/T点2つ。

ルーターの世界に低価格化の大旋風を巻き起こしたMN128-SOHOだが、さらにその廉価版が登場した。MN128-Rは、MN128-SOHOのハブとアナログポートの機能を省いて低価格化した製品だ。すでにTAがあるのでアナログポートは不要、ハブは3ポートでは足りなくなるといった買い替えユーザーに最適なルーターだ。TAとしても使え、シリアルポートを使ったLAS機能(後述)などMN128-SOHOが持っていた機能はすべてそのままのお買い得ルーターだ。

MN128-SOHOの廉価版

ダイヤルアップルーターを購入するユーザーの多くは、すでにTAを使ってインターネットを利用している場合が多い。ルーターにアナログポートが付いているのは確かに便利だが、すでに持っているTAにアナログポートがあればそれで十分というユーザーには不要な機能だ。また、ハブも家庭内では3ポートで十分かもしれないが、SOHOで使うには少ない。結局別途ハブを購入することになるわけだ。それなら、これらの機能が付いていない廉価版ルーターがあれば、かえて使いやすいことは間違いない。OCNエコノミーや専用

MN128-SOHOの廉価版ダイヤルアップルーター

MN128-R

Check!

ルーター機能はMN128-SOHO相当
ハブとアナログポートを省いて低価格を実現
TAとしても使える

DSU付きのMN128-Rを1台目として購入する場合は、この点に気をつけてほしい。

試用レポート

① IPアドレスの自動設定で 簡単セットアップ

MN128-SOHO同様、デフォルトでDHCPが動いているのでパソコンのIPアドレスを未設定にして起動すると、IPアドレスが自動的に割り振られる。あとは、WWWブラウザを使った設定が可能だ。「クイック設定」メニューを使えば、端末型ダイヤルアップの設定は非常に簡単で、拍子抜けするほどだ。オンラインマニュアルのコマンドリストなども比較してみたが、やはりMN128-SOHOと同等の機能を持つようだ。もちろん、接続は何の問題もなくできた。

目新しいところはほとんど何もないのだが、逆にMN128-SOHOと同じという安心感がある。MN128-SOHOの発売当初はファームウェアのトラブルなどがあったのも事実だが、ここに来て落ち着いている。機能差からいっても、店頭ではMN128-SOHOよりも低い価格設定にならざるを得ないから、MN128-SOHOよりさらに安いルーターということになる。TAをすでに持っているユーザーが購入するのに、この安さは選択肢として有力になるだろう。(梅垣まさひろ)

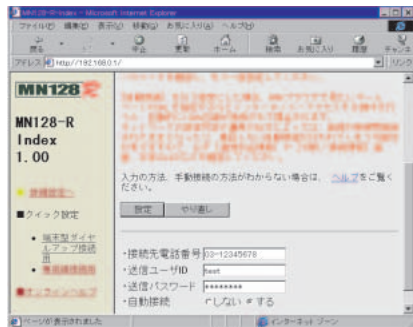
線で利用する場合にも、ハブやアナログポートはなくても困らない。MN128-Rはユーザーのそういったニーズにフィットした製品だ。高機能化ばかりが目につくなかで、あえて機能をダウンさせて低価格化するという方向も、ユーザーにはありがたい。

複数のパソコンには別途ハブが必要

ファームウェアはアナログポートの部分を除けばMN128-SOHOと同等だ。複数のマシンからインターネットが利用できるAutoNAT機能やDHCP、AutoDNS、シリアルポートで接続してPPPできるローカルアクセスサーバー(LAS)機能もそのままだ。MN128-SOHOの最新ファームウェアで対応したPPTP(Point to Point Tunneling Protocol)機能も搭載している。また、TAとして使う場合には、MN128-V3と同等の能力を持つ。もちろん、ISDN、OCNエコノミー、専用線64K/128Kに対応している。

ハード的にも、アナログポートとハブがない以外はまったく同じだ。ただ、10BASE-Tポートには「HUB/PC」切り替えスイッチが付いた。パソコンを1台だけ使うときもハブを接続するときもスイッチを切り換えるだけでよい。

ただし、MN128-SOHO/DSU同様、DSU内蔵型にはDSUの切り離し(無効化)機能がない。MN128-SOHO/DSUの弱点の1つだっただけに、改善されなかったのが残念だ。だが、すでにTAを持っているユーザーなら、DSUなしでよいわけだから問題にはならないだろう。



簡単設定に定評のあるMN128シリーズのインターフェイスは変わらない。

停電対策万全の多機能ダイヤルアップルーター Net Vehicle-fx3

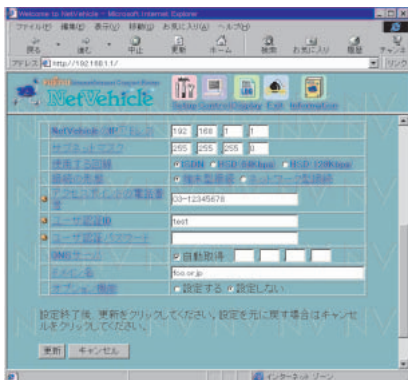
Check!

S/T端子を装備し、DSUも停電対策済み
テレホーダイ対応などISDN機能が充実
低価格だが4ポートハブを内蔵

NetVehicleシリーズの発売からはや1年。NetVehicle-I、NetVehicle-EX3（以降EX3）は低価格で使いやすいルーターではあったが、後発メーカーの多機能化、低価格化の攻勢に、やや後れをとっている感も否めなかった。しかし、新たに発売されたNetVehicle-fx3（以降fx3）は、これまでの後れを取り戻しただけでなく、停電対策や省電力、課金制御、テレホーダイ対応機能などISDNで便利な機能を満載、SOHO向けの魅力あふれるダイヤルアップルーターだ。

最新のハードウェア

EX3ではS/T端子がなかったが、fx3では2つ搭載され、内蔵DSUも切り離し可能になった。DSUは停電に対応しており、停電時もS/T端子が使える。局側給電で動作するISDN電話機を接続していれば、停電時に電話も使用できる。電池を併用すると、アナログポートの電話機でも通話できる（最大2時間）。ここまで万全の停電対策を施したものはTAでもあまりない。また、省電力機能でルーターとハブの機能を停止させられるし、アナログポートのナンバーディスプレイやフレックスホンへの対応、PIAFSを含めたコールバックなどSOHOニーズにマッチした機能が強化された。



設定画面はEX3とほとんど変わらない。ホームページでも設定の疑似体験ができる。

ルーター機能も充実 ダイヤルアップルーター

でもっとも気になるのは、NAT機能だ。fx3の「マルチNAT」では、複数のマシンからインターネットにアクセスできるのももちろんだが、RealPlayer、StreamWorksなどの主要なストリーム系アプリケーションに対応したほか、ゲームのDIABLOも標準サポートした。従来はこうしたアプリケーションをNATで使うためには厄介な設定が必要だったり、またそのために制約があったりと面倒だったが、これでインターネットが無理なく楽しめるようになった。特に個人ユーザーにとっては嬉しい対応だ。さらにProxy DNS機能と多機能なDHCPが利用でき、IPアドレスの管理にも柔軟に対応できる。

また、複数のプロバイダーと接続するとき、TCP/IPのポート番号や発信元IPアドレスなどで接続プロバイダーを区別してルーティングを行うマルチルーティング機能が便利だ。最近メールの送受信に関して他のドメイン経由のアクセスを制限するプロバイダーが増えているので、複数のプロバイダーを利用しているユーザーには嬉しい機能だ。そのほか、テレホーダイ機能では、テレホーダイ時間帯には自動切断しないようにすることも可能になっている。

fx-3は低価格なのにsyslog機能も充実し、アナログポートを含めた発着信のログや課金情報などを記録できる。syslogの動作するUNIXマシンが必要だが、企業などでログを残して管理したいユーザーも安心して使えるようになった。

電子メール通知サービス

NECのTA、Atermシリーズが搭載して注目を集めた電子メール通知サービスだが、fx3でも、InfoWebとの連携でメール着信通知サー



発売元	富士通株式会社
価格	68,800円
問い合わせ	0120-894-321
付属品	ISDNケーブル(クロス、ストレート各1本)、10BASE-Tケーブル
URL	http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/Products/telecom/NV



ポディーサイズは
280(幅)×45(高さ)×210(奥行き)ミリ。



左からAC電源入力、電源スイッチ、10BASE-Tポート4つ、RS-232Cポート、アナログポート2つ、ISDN U点、S/T点2つ、ALTスイッチ。

ビスが提供された。なお、対応プロバイダーは順次増やしていくとのことだ。

試用レポート

①WWWで簡単設定

設定は、WWWブラウザから行う。最初からDHCPが動くように設定されているので、IPを設定していないパソコンを接続して起動すれば、IPアドレスが自動的に割り振られる。このため、端末型ダイヤルアップで最低限設定しなければならぬのは、アクセスポイントの電話番号とユーザー認証ID、パスワードの3つだ。ネットワークカードのインストールに手間取らなければ、TAよりもかかって簡単くらいだ。リモートでの管理が必須な専用線やOCNエコノミーの場合にも、telnetでルーターにログインしてコマンドラインベースで設定することができる。

このようにEX3の不満を一気に解消してくれたfx3は、他社の低価格ルーターと比べてもアドバンテージを持つ優れた製品といえそうだ。ファームウェアも、1年以上継続してメンテナンスされた歴史を持ち、安定動作の実績も高い。EX3はどちらかというと企業ユーザー向けという印象が強かったが、fx3は家庭内、特にSOHOでも使いやすい製品になった。(梅垣まさひろ)

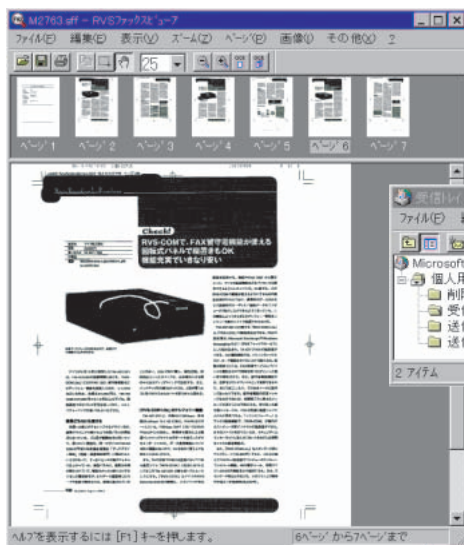
TAでFAXが使える多機能コミュニケーションツール

RVS-COM

Check!

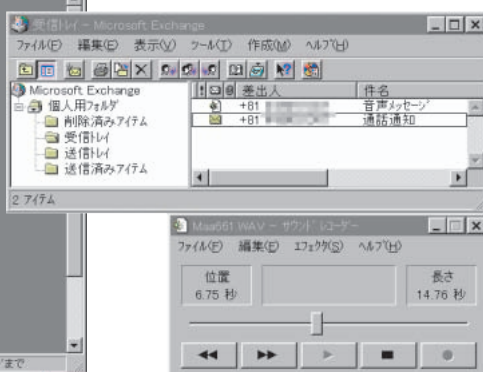
FAX機能対応TAでFAXモデムが不要になる
 ファイル転送やリモートコントロールが可能
 日英バイリンガルOCRが標準添付

開発元	独RVS Datentechnik社
発売元	メガソフト株式会社
価格	28,000円 (スタンダード版、5月29日発売予定)
問い合わせ	06-386-2072
動作環境	ウィンドウズ95が動作する、16Mバイト以上のメモリーを持ったマシンかウィンドウズNT4.0が動作する、24Mバイト以上のメモリーを持ったマシンで、ともにハードディスク空き容量が25Mバイト以上のもの
URL	http://www.megasoft.co.jp/



RVSファックスビュー画面。RVS-COMがあれば、FAXモデムを別に購入する必要はない。

留守番電話のようにMicrosoft Exchangeの受信トレイで音声メッセージを受け取れる。



今年に入ってから、FAX機能を搭載したTAが続々と発売されている。そのほとんどがRVS-COMを採用し、機能限定版であるRVS-COM Liteを添付している。業界では、ちょっとしたブームになりつつある。TAメーカー側ではFAX機能だけを強調しているため、RVS-COMイコールTA-FAXソフトという理解があるが、実際には単なるFAXドライバーソフトというよりも、むしろテレフォニー機能を持つ新しいコミュニケーションツールというべきものだ。

ISDNとCAPI

RVS-COMは、独RVS Datentechnik社によって開発されたコミュニケーションツールで、ISDN CAPI 2.0 (COMMON-ISDN-API、「キャピ」と読む) というTAの標準APIに対応するソフトウェアだ。CAPIは、おもに独のISDNメーカーで作られた「CAPIアソシエーション」によって策定された規格だが、ヨーロッパでは標準規格として受け入れられて広く使われるようになったものである。米国や日本ではまだ普及段

階ではないが、ISDNを統一的に使うAPI規格の1つとして注目を集めている。CAPIに対応したTAを使うと、データ通信だけでなくG3/G4 FAXの送受信やアナログモデムのエミュレーション、テレフォニーなどがTAメーカーの供給するCAPIのドライバーで扱うことができるようになる。残念ながら、国内ではCAPIのドライバーを供給するTAメーカーは現れていないため、RVS-COMの本領を発揮できる環境はまだ整備されていない。だが、FAXなどRVS-COMに対応するための一部の機能は、いくつかのTAには盛り込まれており、RVS-COMを使う最低限の環境整備は揃い始めてきたといえるだろう。

FAX機能

RVS-COMのFAX機能は、いうまでもなくFAX (G3) を送受信する機能だ。Windows Messagingのサービスプロバイダーの1つとして組み込まれるため、実際の操作はMicrosoft Exchange (受信トレイ)、Outlookなどで行うことになるが、ハードウェアはRVS-COM対

応TAだけでFAXが使えるようになる。これは、FAXの送受信のための処理や変復調をパソコン側で行っているためで、その分CPUパワーを必要とする。また、標準添付のOCRソフト、OK READER 3.1 LE (住友電工) を使うことで受信したFAXをテキストデータに変換することも可能になっている。

ファイル転送機能

ファイル転送機能は、いわば簡易BBSのような機能で、RVS-COMが動作するパソコン同士をISDN回線で接続するとファイルの転送ができる。手で相手と接続し、エクスプローラを使ってファイルをドラッグアンドドロップすることもできるが、「オートファイル」という仕組みを使うと回線の接続から指定したファイルの転送、切断までをバッチ処理させることが可能だ。

リモートコントロール機能

この機能はその名の通り、接続した相手のパソコンをこちらから操作できるものだ。もちろん、画面が表示されるだけでなく、マウスのクリックやキーボード入力も可能。リモートメンテナンスに使えそうだ。

RVS電子メール

電子メールといっても、簡易BBSのような形式のものだ。実際のメールの送受信は、FAXと同様にMicrosoft Exchangeなどを使うことになる。実際にはインターネットメールが使えるユーザーにとってはさほどメリットのない仕組みではあるが、添付ファイルの送信などではTA同士での直接の転送なので、効率がいい。

テレフォニー機能

テレフォニー機能には、パソコンの「サウンド」を使って電話がかけられる機能、留守番電話、音声メッセージを流す機能などがある。

FAXと通常の電話の自動判別も行われるため、留守電状態でもFAXを自動受信することができる。つまり、留守電付きFAX機と同等と考えてよい。また、時間帯によって自動的に留守電状態にしたり、留守電の応答メッセージを時間帯ごとに変えるという小技もパソコン処理ならではだ。留守電メッセージは、サウンドファイルとして保存される。さすがにマイクとスピーカーでというわけにはいかないが、ヘッドセットを用意すればパソコン本体を電話として使ってしまうこともできるから、キーボードを打ちながら電話を使う業務には利用できる。

SOHOに最適なツール

このように見ると、パソコンとTAの電話機能が融合した形で提供されていることがわかる。実際にはFAXの自動受信や留守電として使うにはパソコンの電源をいつも入れておかなければならず、一般家庭ではやや無理がある。だがSOHOのような業務用途ではファイル転送機能の便利さ、着信電話番号をすべてパソコン上で管理できるなどメリットもある。ウィンドウズ98で新たに導入されるスタンバイ機能が使えれば、待ち受け時の消費電力も抑えることができそうなので期待したいところだ。なお、対応TAにバンドルされているRVS-COM Lite版との機能の違いは、右の表のとおりリモートコントロール機能、RVS電子メールの有無などだ。単にTA-FAXとしてだけ使うのであればLite版でも十分だろう。また、RVS-COM社ではLANでTAをシェアしたり、FAXサーバーとして動作したりするプロフェッショナル版が提供されているが、日本での発売は未定とのことだ。

試用レポート

① Microsoft Exchange を事前にインストール

RVS-COM 対応TAであるアイワのTM-AD1281とアレクソンのALEX-TD503を使ってみた。試用できたのが版だったため、OCR機能を試すことができなかったほか、着信判別がうまくいかないなどの問題点もあったが、版ということであえて触れないことにする。

まず、FAXを使うために事前にMicrosoft ExchangeやOutlookなどのツールをインストールしておく必要がある。これを怠ると、インストールウィザードでの設定では、TAは自動検出されるし、主な設定といえば回線番号、FAX

やRVS電子メールで使う名前や会社名などだけで、それほど難しい設定はない。インストールされるソフトの中の「コムセンター」がRVS-COMの心臓部にあたるソフトだ。このコムセンターの設定では、多機能さとISDNやRVS-COM独特の言葉ゆえの難しさがなくはないが、ほとんどがデフォルトの設定だけでうまく動くようだ。

② 速いファイル転送

RVS電子メール機能は、インターネットメールが使えるユーザーには必要ないだろう。だが、大きなファイルを交換したいときには、このソフトのトランスファーマスターを使ったほうが現実的だ。実際に64Kbpsで接続してファイル転送を試したところ、500Kバイトのテキストファイルが35秒、圧縮済みの500Kバイトのバイナリーファイルが67秒ほどで転送できた。それぞれ、約14Kバイト/秒、7.5Kバイト/秒の転送速度で、テキストファイルが圧縮転送されていることがわかる。インターネットで転送するよりも効率がいいし、セキュリティも安心できる。ただ、ウィンドウズNTのRASやウィンドウズ95のダイヤルアップサーバーを使っても同様のことができるので、実用的な意味はそれほど大きくない。

③ リモートコントロールはかなり遅い

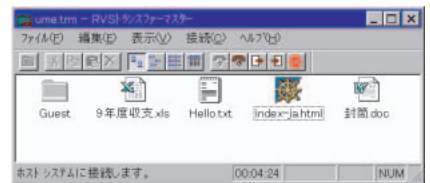
リモートコントロール機能はなかなか便利な機能だが、実際に使ってみると、64Kbpsで接続していても相手の画面がウィンドウ上に表示されるまでにかなりの時間待たされる。遠隔地にあるウィンドウズマシンというのはメンテナンスが厄介なので、そういう限定した用途なら使えそうだが、この機能を持つソフトはあまり多くないので、貴重な機能ではある。

④ FAXと留守電は結構使える

FAX機能は、FAXモデムを使ったことがあればそれとまったく同等の機能と考えればよく、取り立てて新しい機能があるわけではない。しかし、FAXモデムと違い、TAのアナログポートを使用することがない。また、FAXモデムの場合とは異なり、自動判別により留守番電話との自動切り替えができる点は優れている。ただ、仕事で一日中パソコンを使っているのなら問題ないが、家庭でパソコンの電源を入れればなしにす

るといのは、ファンの騒音や電気代のことを考えると得策とはいえない。家庭で使うときは送信専用と考えたほうがいいだろう。

もし、CAPI対応のドライバーを持つTAであれば、これらの機能がもっと便利に使える可能性を秘めたソフトウェアがRVS-COMだ。ISDNをもっと便利で使いやすくするためのツールとして、FAX機能に限定せず、より本格的にRVS-COMが使えるTAの出現に期待したいところだ。 (梅垣まさひろ)



RVSトランスファーマスターを使ったファイル転送画面。



RVS-COMの各種ツールアイコン。

機能対応表
(RVS-COM 対応TAを使った場合)

	Lite版	スタンダード版
FAX機能		
FAX一括送信	×	
ファイル転送		
リモートコントロール	×	
RVS電子メール	×	
テレフォニー		
日英バイリンガルOCR	×	

FAXテレフォニー対応TA
(1998/3/27現在、対応予定を含む)

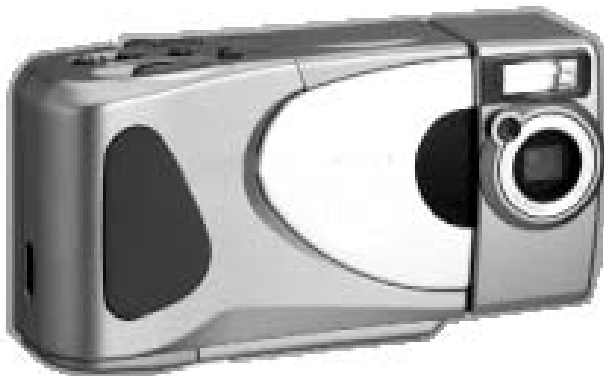
メーカー	機種名	Lite添付	備考
アイワ㈱	TM-AD1281		
オムロン㈱	MT128B -D		
㈱アレクソン	ALEX-TD503		
㈱ビー・ユー・ジー	Linkboy DUO128 Linkboy D128		Ver.1.30のみ Ver.1.30のみ
㈱NTT-TE東京	MN128-V3 MN128-SOHO MN128-R		予定 予定 予定
ロジテック㈱	LPM-TA128A		予定
㈱イントラックス	いん太君		予定
㈱ソニー	ST-128DSU		予定



発売元	カシオ計算機株式会社
価格	53,000円
問い合わせ	03-5334-4828
付属品	ソフトケース、ハンドストラップ、単3アルカリ電池4本
オプション	パソコンリンクソフト(Win版、Mac版各6,500円)パソコンリンクケーブル(4,800円)デジタルフォトプリンター、ACアダプター(4,000円)、ビデオコード(1,500円)

URL http://www.casio.co.jp/productnews/qv_770.html

持ちやすいフォルムと遊び心満点のQV-770



撮影した panoram を QV-770 内で合成して、パンニング表示することができる。



レンズ部が回転するので、自由なアングルで撮影できるのも魅力。色再現もかなり鮮やかになった。

QV-770

レンズ	38mmF2 (35mmカメラ換算)
CCD	1/4インチ35万画素
記録メディア	内蔵メモリー(4Mバイト)
最多記録枚数	120枚
サイズ、重量 (W×H×D)	129×66×38mm、約200g (電池を除く)

簡易動画やパノラマ撮影ができる35万画素モデル

QV-770

Check!

内蔵メモリーへの記録が非常に高速
簡易動画やパノラマをカメラ内で再生が可能
充実した基本機能に加え、おもしろ機能満載

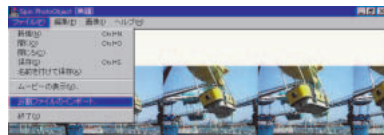
カシオQV-770は、これまでのQVデジタルシリーズで培ってきた使いやすさとおもしろ撮影機能を、初代QV-10とほとんど同じボディサイズにギュッと凝縮させたモデルだ。

軽快なレスポンスと使いやすさが魅力

QV-770は、1/4インチ35万画素CCD搭載の内蔵メモリー(4Mバイト)モデルで記録時間が極めて短いのが特徴だ。もっとも高画質で時間がかかるFINEモードでも1.5秒程度で次の撮影ができる。

レンズは38mm相当でピントは固定式。マクロポジションにすると14~16cmの接写ができ、ちょうどサービスサイズの写真を画面いっぱい撮影できる。レンズ部回転機構も健在で、自分撮りでもストロブ撮影ができる。ファインダーは12.2万画素の1.8型HAST(ハイパーアモルファスシリコンTFT)液晶で、クッキリ感がアップ。QV-770自体の色再現も向上し液晶モニター表示の品質は数あるデジカメでもトップ

スピノフォトオブジェクトを使えば、ムービープレイ機能で撮影した簡易動画をQuickTimeムービーなどに簡単に交換できる。



ムービープレイ機能を使えば3.2秒の簡易動画の記録と再生ができる。ホームページ素材用にはピッタリだ。

レベルだ。

使いやすい露出補正をはじめ、絞りやホワイトバランスの手動選択、モノクロやセピアなどのフィルター、タイトル合成、後述するムービープレイやパノラマ撮影など、さまざまな機能を満載している。また、IrTran-Pによる赤外線通信機能も搭載しているので、IrTran-P対応機器とコードレスでデータ伝送が行える。

なお、5月31日までに購入すると「スピノフォトオブジェクトVer1.1プロモーション版」が店頭でプレゼントされる。これを使えば、ムービープレイで撮影した動画を、アニメーションGIF、AVI、QuickTimeなどに簡単に交換できる。

試用レポート

① カメラ内部でパノラマ合成や動画再生ができる

QV-770ならではの機能として、ムービープレイ機能が挙げられる。約0.1秒間隔で32コマの画像をマルチ連写する機能で、これをカメラ内で連続再生することで動画として楽しめるというものだ。パソコンに転送されたムービー画像は、単なる16分割マルチの2枚の静止画像として保存されるが、前述した「スピノフォトオブジェクト」で分割ファイルのインポート機能を使えば、AVIやQuickTimeムービーなどに交換できる。また、パノラマ撮影モードでは、直前に撮影した画像が残像となって画面の左端に表示されるので、継ぎ目を把握しやすく、しかも撮影したパノラマ画像をQV-770内部で合成して再生できる。パソコン転送後は、別売のパソコン接続キットに付属する「スピノパノラマ」で手軽なパノラマ合成が可能だ。

このように、カシオQV-770は、VGA画素クラスならではの軽快さと楽しさを追求したデジカメで、メガピクセルクラスとは明らかに異なる住み分けを狙った製品だ。(伊達淳一)

フルメタルボディーで軽快なレスポンスが魅力

PowerShot A5

Check!

電源に連動して自動開閉するレンズバリアー
Smallモード時にはISO400相当の高感度
豊富なユーティリティソフトが同梱

キヤノンPowerShot A5は、1/3インチ81万画素CCDを搭載したXGA画素クラスのデジカメラで、81万画素以上のCCDを搭載したデジカメラとしては世界最小サイズ。外装はジュラルミン合金で、電源に連動して自動的にレンズバリアーが開閉する。レンズも沈胴式で、背面の液晶モニターがなければ、銀塩の高級コンパクトカメラにしか見えないうら。

高級コンパクトカメラの風格

最近の高画質デジカメラは、130万画素クラスのCCDを搭載した製品が主流になりつつあるが、130万画素という画素数はプリントして楽しむためのもので、グラフィック表示能力の低いパソコンでは、全画面を縮小せずに表示することさえ難しい。その点、81万画素クラスなら、パソコンで観賞するにはちょうどよい画像サイズで、プリントしてもある程度のクオリティが得られる。そういう意味では、なかなかバランスの取れた画素数だ。

しかも、PowerShot A5はメモリーへの記録が高速で、既存の81万画素モデルが14秒近くかかるのに対し、A5は信号処理を専用ICでハードウェア的に行うことで約4秒で記録が終了する。記録メディアはCF（コンパクトフラッシュ）で、標準で8MバイトのCFカードが付属しているのも実用的だ。パソコン接続キットやブラウザ、パノラマ合成ソフトなどのユーティリティソフトも同梱されているので、コストパフォーマンスも高いといえるだろう。

試用レポート

ISO 400 まで感度アップする
Smallモード

PowerShot A5のボディー上部には電源スイッチを兼ねたモードダイヤルがあり、撮影モードに合わせると、レンズバリアーが自動的に電

動で開き、沈胴式レンズがせり出してくる。このあたりの雰囲気は、まさに高級コンパクトカメラそのものだ。撮影モードは、オート、プログラム、スティッチアシスト（パノラマ撮影）の3つで、オートモードでは、画像サイズはLarge（1024×768ピクセル）に固定され、FINEとNORMALの画質が切り換えられるほかはカメラまかせの設定となる。プログラムモードに切り換えると、Small（512×384ピクセル）という画像サイズも選択できるようになり、露出補正もメニューで呼び出せる。ただ、この露出補正は操作のステップ数が多いので、シャッターボタン半押しによるAEロックを使ったほうが便利だ。

さすがに130万画素クラスと比べるとプリント画質は及ぶべくもないが、既存の81万画素モデルよりは自然な色合いで、非常にカリカリとしたシャープネスの高い絵だ。また、画像サイズをSmallに設定している場合には、ISO400相当まで感度がアップするため、水族館など低照度の所での撮影には圧倒的に強い。

電源は2CR5タイプで、単3アルカリ電池よりもランニングコストが気になるが、オプションでニッケル水素充電電池と専用充電器を兼ねたACアダプターが電源キットとして用意されている。こちらを使うのが現実的だ。（伊達淳一）



SmallモードではISO400相当まで増感されるので、水族館のように明るさが不足するシチュエーションでもノンストロボで撮影できる。



APSカメラの「IXY」を彷彿させる、洗練されたデザインだ。



このカメラモニターに設定画面が表示される。



マクロモードに切り換えると最短9cmまでの接写ができる。ピント精度はかなり高いが、被写体や撮影条件によってはピントが合うまで2～3秒かかることもある。

PowerShot A5

レンズ	35mm F2.5 (35mmカメラ換算)
CCD	1/3インチ81万画素
記録メディア	CF(8Mバイトカード同梱)
最多記録枚数	89枚(Large)
サイズ、重量 (W×H×D)	103×68×32.5mm、約230g (電池を除く)

URL http://www.canon.co.jp/Imaging/PSA5/psa5_pc00-j.html

HTML化できる素材豊富なパブリッシングソフト

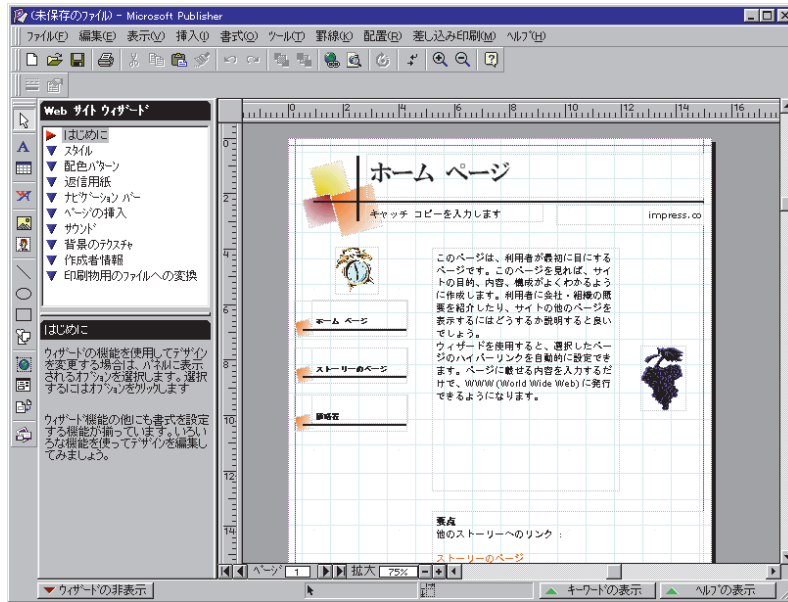
Microsoft®

Publisher 98

Check!

ウィザード形式で簡単印刷物作成
自由度の高い編集機能
ヒサゴと共同開発のオリジナル用紙対応

開発元	マイクロソフト(株)
価格	14,800円
問い合わせ	03-5454-2300
動作環境	ウィンドウズ95が動作する、12Mバイト以上のメモリーを持ったマシンか、ウィンドウズNT4.0が動作する18Mバイト以上のメモリーを持ったマシンで、ともにハードディスク空き容量が145Mバイト以上のも
URL	http://www.microsoft.com/japan/office/publisher/



右ページの1~4でできあがったページは、HTML化してウェブページにもできる。ブラウザでの表示とまったく見かけが同じになるようにオブジェクトが変換される。

ワードプロセッサの表現力が日々向上しているのに伴い、もはや、プロフェッショナルが商業印刷物のために使うソフトウェアとしてのジャンルになってしまった感があるデスクトップパブリッシングソフト。Microsoft Publisherは、そんな中で、マイクロソフトのワープロソフト、Wordとは、まったく異なるコンセプトのもとに毎年のように改版が続けられてきたアプリケーションだ。

ウィザードを使ったレイアウト設定

とにかくインスタントに、そこそこ見栄えのする印刷物を作ること。Publisherの目指すゴールはそこに帰結している。今回発表になった初の日本語版では、印刷用紙のメーカーとして有名なヒサゴとの共同作業により、同社が供給するオリジナル用紙への印刷などに対応し、よ

り満足度の高い印刷物の制作を可能としている。

制作したい印刷物の種類や体裁などを、用意されたウィザードを使って選択肢の中から選んでいくだけという操作は、あくまでもイメージでありながら、微調整の余地がかなり残されているため、単なるテンプレートにとどまらない自由度を持っている。種類が多いようでいて、結局はパターン化したものしか作れないというわけではないのだ。

ウィザードは、最初に体裁を作り、最終的に内容を編集するというステップで進んでいく。カタチを作るためのナビゲートにしたがって、さまざまな指定をしたところであらう完了し、そのあとに、文字などの情報を置き換えるという順になる。

このような形で用意されているウィザードは、

そのほとんどが1枚ものであることから、この製品は、どちらかといえば、小冊子やページもののパンフレットなどよりも、チラシや会報、ハガキ、グリーティングカードを作るのに向いている。もちろん、白紙をもとに、ゼロから自分でデザインを起すこともできるので、その気になれば、書籍のようなものの制作も可能だ。その場合は、各ページで同じデザインを利用できる「背景ページ」に基礎となるデザインを作っておき、それをバックに前景ページに文字などを流し込んでいくという流れになる。背景ページは、すべてのページの背景となるオブジェクトを配しておくことができる特別なページだ。

日本語特有の部分としては、テキストに対してスタイルを作成でき、そこで、フォント、段落、行間隔、文字幅とその間隔などを指定できるようになっている。当然、日本語と欧文が混在する場合には、それぞれに対して別のフォントを指定することができる。また、段落に関しては、禁則処理や句読点のぶら下げなどの設定が可能となっている。もちろん、縦書きや縦中横なども指定でき、特に不自由はしない。

ウェブページへの出力も可能

こうして完成した印刷物は、それをHTML化し、ウェブページとして出力することもできるというのが大きな特徴になっている。

もちろん、紙とウェブページには、それぞれの特質があるため、まるっきり同じというわけにはいかない。たとえば、文字のオブジェクトと画像のオブジェクトが重なっているようなレイアウトでは、それをHTML化しようとしたとき、重なりが指摘され、オブジェクトの位置関係を変更するように促される。それを無視した場合には、文字オブジェクトは、グラフィックスに変換されるなど、とにかく作成しているものを強引にウェブページにするという姿勢が実に健

気だ。ウェブページで表現が可能なものしか作成できず、それをそのままHTML化する一般のWYSIWYG-HTMLエディターとは、この点が大きく違う。

ワープロソフトは、今残っているコンピュータ黎明期からのアプリケーションの中で、最もコンピュータっぽいところを残しているカテゴリーである。文書の先頭と[EOF]としての末尾の間に文字を挿入していくという作法は、コンピュータに慣れ親しんでいるユーザーにとっては、とても理解しやすいが、専門知識を持たないユーザーにはちょっと理不尽だ。それよりも、仮想的な紙の上のどこにでもペンを下ろせ、前後の段落のつながりを意識せずに、枠内に文字を入れていけるインターフェイスのほうが理解しやすいかもしれない。

そういう意味で、PowerPointのようなビジネスグラフィックス系のプレゼンテーションソフトや、今回のPublisherのようなデスクトップパブリッシングソフトは、原稿用紙のマス目やレポート用紙の横罫の存在を忘れさせる貴重な存在だといえるだろう。ワープロ一辺倒ではなく、こうしたソフトウェアも、滞ることなく着々と進化を続けてほしいものだ。

試用レポート

① 豊富なテンプレート

Publisherを起動すると、まず、カタログ選択のダイアログが表示される。ここで、はがき、グリーティングカード、招待状、封筒、名刺、レターヘッド、三つ折りパンフレット、チラシ、カレンダー、横断幕、プログラム、FAXカバーシート、メニュー、ラベル、賞状/認定証、貼り紙、会報/ニュースレター、ウェブページという18種類のカテゴリーから、作りたい印刷物を選ぶ。

それぞれのカテゴリーの中には、さらに細分化されたバリエーションがあり、その総数は600種類に及ぶ。これらが出来合いの雛形として用意されているわけだ。

② オリジナルデザインも簡単作成

作りたいものを選ぶとウィザードが起動し、ウィンドウには基本レイアウトが呼び出される。デザインの基本要素を順番に選択するべく、「次へ」ボタンをクリックしていくことで、順に各要素を指定していけるようになっている。

たとえば、暑中見舞いハガキの場合には、配色パターン、サイズ、宛名面の内容などを順に

決めていく。また、一気に完了させて、あとでウィザードの各ステップに戻ることもできる。

こうしてすべての指定が終わったところで、名前や電話番号などが正しいかどうかを確認し、必要に応じて置き換える。また、暑中見舞いなどでは、挨拶の文言などを追加すればいい。文書中に挿入される既定の個人情報やビジネス情報は、あらかじめ設定しておいたものが参照されるようだが、今回評価したバージョンでは、どうしても、その設定方法がわからなかった。

③ プロユースでもある印刷機能

印刷は、ウィンドズで利用できるプリンターにトンボ付きで印字できるのはもちろん、ポストスクリプト形式の出力も可能となっている。

この手のアプリケーションでは、クオーク社のQuark XPressやアドビシステムズ社のPageMakerが有名だが、これらの製品は、プロユースが前提だ。ウィザードを使ったお手軽作成という意味では、まったくユーザー層は異なるといえる。

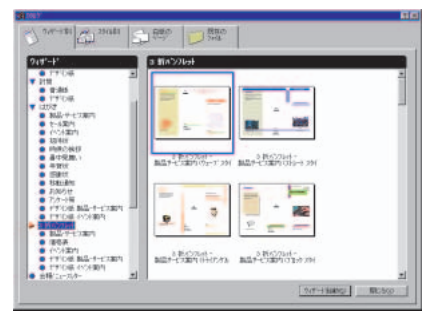
が、すでにレイアウト上に配置されたオブジェクトを別のオブジェクトに置き換えるような操作をする際には、削除や貼り付けが必要で、サイズの調整なども手動になってしまう。このあたり、ちょっと中味をいじろうとすると、とたんに操作が煩雑になってしまうのは、何とかならなかったのだろうか。

つまり、出来合いのもので、そのままよしとするのであれば極端に簡単だが、それを微調整していくためには、ある程度の慣れが求められる。操作によっては、オリジナルのレイアウトがガタガタに崩れてしまうことにもなりかねない。

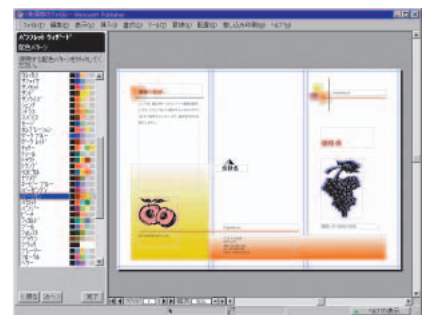
④ 機能充実で、奥が深い

言い方を変えれば、とても自由度の高いレイアウトツールに、ウィザードというシェルをかぶせた安易なアプリケーションである。そのことは、逆に、ちょっと使い込んでいけば、たとえば、デジカメで撮影した画像をコラージュし、フルカラーインクジェットプリンターで印刷するといった使い方も便利に利用できそうということでもある。変にすべてが自動化されていないだけに、使う側の発想どおりに作業を進められるわけだ。使い方がある一線を越えた場合に、極端に操作が難しくなるということでもあり、隠れているすべての機能を使いこなすには、けっこうな努力が求められるかもしれない。奥は深いが敷居は低い製品だといえる。

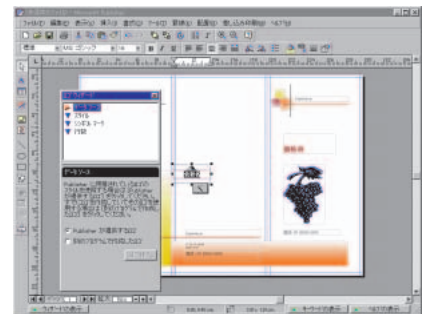
(山田祥平)



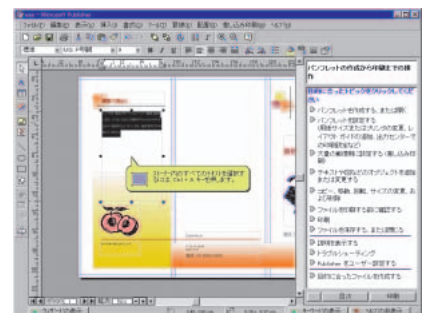
1. 起動時に表示されるカタログのダイアログ。600種類におよぶ印刷物が選べる。



2. 「次へ」ボタンをクリックしながら、レイアウトを好みの形に仕上げていく。色の組み合わせなどは数も豊富だ。



3. 完了したら、内容をさらに微調整。文字などを任意のものに置き換える。



4. ヘルプやポップアップヒントはかなり充実しているが、多少のうるささを感じる。



開発元	ザクソン株式会社
価格	4,500円(シェアウェア版) 12,800円(パッケージ版6月末発売予定)
問い合わせ	06-945-6793
動作環境	ウィンドウズ95/NT4.0が動作する、16Mバイト以上のメモリとハードディスク空き容量が5Mバイト以上のマシン
URL	http://www.xaxon.co.jp/nm/

CD-ROM収録先 CD-ROM【A】
WIN : Win Netmail

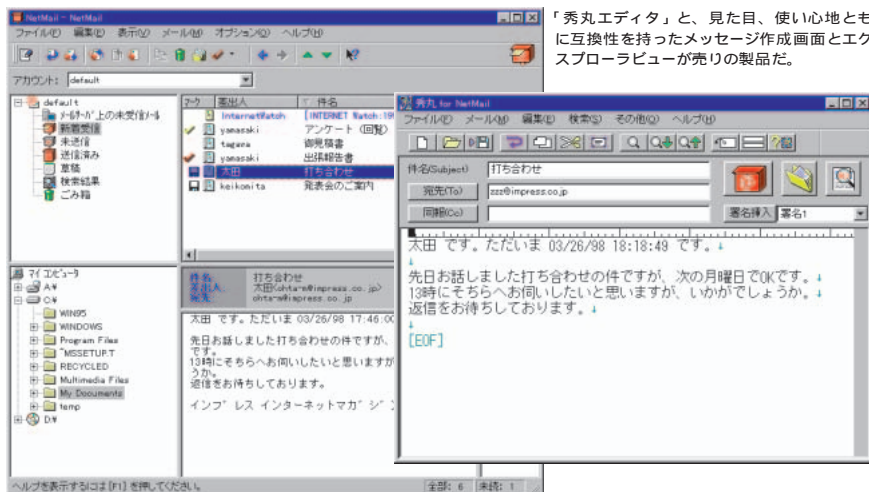


エディター機能を充実させたメールソフト

Net Mail

Check!

「秀丸エディタ」の機能を丸ごと実現
他社メールソフトからの乗り換えがラク
HTMLメールはサポートしていない



「秀丸エディタ」と、見た目、使い心地ともに互換性を持ったメッセージ作成画面とエクスプローラビューが売りの製品だ。

されている「検索結果」フォルダーに表示される。これは一時的なものなので、検索によりほかのフォルダーからピックアップされたメールが消えることはない。

また、振り分け機能で「未読メールも振り分ける」を選ぶと「振り分けの際に受信トレイにショートカットを残す」にチェックを付けるかどうかを選択できる。ここにチェックを付けたら、新しいメールを受信したときに、見た目は新着受信トレイに未読のまま置かれる一方で、指定したフォルダーにメールが振り分けられる。

① メールへの乗り換えが容易

メールのインポート(本文とアドレス帳)は、インターネットメール、アウトLOOKエクスプレス/エクスチェンジ、ネットスケープメール/メッセージャー、Becky!、電信八号、AL-Mail(16/32)、Eudora Pro、Winbiff、UNIX mailから行える(ただし、電信八号、インターネットメール、エクスチェンジ、メッセージャー、UNIX mailではアドレス帳のインポートはできない)。本文を取り込むときに専用フォルダーを作成するので、一目でインポートされたメールが把握できる(4月上旬現在、一部不具合もある)。

また、一度受信したメールをもう一度見たい場合に、メールをサーバーに残す設定にしておくと、NetMailでは「メールサーバ上の未受信メール」フォルダーで再度確認ができる。もう一度受信したいメールのチェックボックスにチェックを付けると、そのメールだけを受信することができて無駄が省ける。この点は、モバイルにも対応したメールソフトだといえるだろう。

肝心のメールの編集は「秀丸エディタ」とまったく同じ編集画面で、同じマクロを使用できるが、あくまでもメールソフト内部のエディターなのでテキストの保存や読み込みなど一部動作が異なることもある。

(編集部)

NetMailはワープロ機能にこだわって作られたメールソフトだ。通常、文章を書くときにはエディターソフトが使われるが、まったく同じインターフェイスでメールを打ちたいという要望に応えた製品になっている。そのため、日本語テキストエディターで人気のシェアウェア「秀丸エディタ」の操作性(編集画面やキー割り当て、共通設定など)をそのまま活用している。

ドラッグアンドドロップで簡単にファイル添付

NetMailはほかのメールソフトでは見られない4つのペインビュー構成になっている。通常、多いパターンは3つだが、増えた1つ(左下のペイン)ではエクスプローラを展開する。ここで直接エクスプローラの操作ができるので、メールに添付したいファイルをフォルダーから参照して、ドラッグアンドドロップで簡単にメールに添付できる。反対に受信メールのテキスト保存もこの操作でできてしまう。

また、マルチアカウントに対応しているので、アカウントごとにメールフォルダーの管理ができる。

試用レポート

① 簡単インストールと環境設定

インストールは簡単で、既存のソフトと同様にサーバー名やアカウントを設定すればよい。セットアップは難なく完了した。

次にオプションメニューから「環境設定」を選ぶ。「環境設定」タブでは添付ファイルの保存先のフォルダーを指定したり、NetMail起動時にパスワードを入力するかどうかの項目がある。次の「送信」タブには「半角カタカナは全角に自動変換する」という項目があり、半角仮名文字による文字化けを未然に防ぐことができる。「受信」タブの「受信したメールはサーバから削除する」は初期設定ではチェックが付いていない。このあたりは必ず目を通しておこう。

さらにアドレス帳を設定しようとする、グループ分けはできるが、個人情報が名前とアドレスだけというシンプルな作りになっていた。

② 検索結果がフォルダーに収容される

本文をキーワード検索する場合、編集メニューから「検索」を選ぶ。検索文字列を入れて検索を開始すると、その結果があらかじめ用意

データベース一括管理のメールソフト

++Mail Ver.2.0

Check!

抽出シートでメッセージを簡単リストアップ
音声や手書きのメールをやりとりできる
他社主要メールソフトのログをインポート可能



開発元	株式会社ソフトフロント
価格	12,800円(発売記念キャンペーン製品は2ライセンス付き)
問い合わせ	011-736-8330
動作環境	ウィンドウズ95/NT4.0が動作する、16Mバイト以上のメモリーとハードディスク空き容量が10Mバイト以上のマシン 漢字Talk7.5以上、MacOS 8.0/8.1対応の空きメモリー2Mバイト以上、ハードディスク空き容量10Mバイト以上のマシン

URL <http://www.softfront.co.jp/ppmail/>

一見して他のメールソフトとは異なり、メールの検索(抽出)に重点を置いたデータベース管理機能を持って昨年登場した「++Mail」の機能強化版「Ver.2.0」が発売された。今回は特に抽出機能が強化されたほか、アドレス帳の管理および他社メールソフトからの移行を考慮した製品となっている。

マルチメディア対応のメールソフト

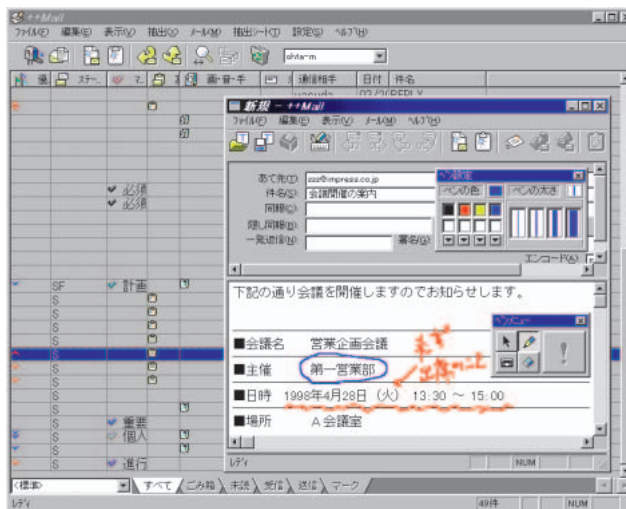
このソフトでは、NTTヒューマンインタフェース研究所で開発された音声圧縮技術「DualSpeech」を使って音声メッセージを送ることができる。また、マウスによる手書きもできるので、キーボード操作の苦手なお年寄りや子供にも簡単にメッセージが作成できる。

新規作成画面には、各種の挨拶状からオフィス向けの見積書や議事録などまでのテンプレートが初めから用意されている。さらに、++Mailを使ったユーザー間であれば、先に指定したアドレスの順番で回覧、稟議をさせる機能も利用できるなど、オフィスでもプライベートでも十分に活用できるメールソフトだ。

試用レポート

① 仕分けが不要。便利な抽出シート
メールを受信した場合、まず「受信」シートにメールが溜まる。このとき「すべて」シートでも、このメールを見ることができる。そこで、「抽出」メニューで「抽出モード」を選ぶと検索バーが表示され、読み出したいメッセージのキーワード(通信相手や件名など)を入力すると、該当するメッセージが1つの新規のシートに表示される。

この抽出条件がVer.2.0で強化されている。ステータスや未読、通信相手といったもののほか、各メッセージにマーキングができる。これ



ウィンドウズ版の画面。会議開催用のテンプレートを使った例。簡単に手書き入力もできる。

は初期設定では「必須、重要、進行中」など7種類だ。しかし、このマークラベル名は好きなように変更ができる。また、Ver.1.0でサポートされていなかった「NOT(～を含まない)」での抽出ができるようになった。しかし、その設定は単語の前に「(半角チルダ)」を付けて指定するため、検索バーを見ただけではわかりづらい。操作に慣れるまで不便かもしれない。

また、抽出結果で表示したシートはグループ化できるようになり、さらに管理がしやすくなっている。

② シンプルだが機能的なアドレス帳

アドレス帳に設定する項目は、ニックネームとメールアドレス、グループ、コメントだけという、いたってシンプルな構造になっている。住所や会社名などを入力できるアドレス帳を望む人にとってはかなり物足りないだろう。

あて先を指定する場合は、メッセージの新規作成画面の「あて先」でマウスを右クリックするとアドレス帳に登録している名前が一覧表示

CD-ROM 収録先
CD-ROM【B】

WIN :
Trial Win Ppmail
MAC :
Tiral Mac ++MAIL



されるので、その中から選択する。また、アドレスを直接入力しようとすると、頭のアルファベットを打った時点で、アドレス帳に同じものを見つけてそれを自動表示する「アドレス入力補完機能」も備えている。また、受信メールの差出人を自動的にアドレス帳に登録する機能も追加され、使い勝手がよくなっている。

③ インポートできるメールソフトが増加

インポートは(Ver.1.0以外に)マック版はネットスケープメール/メッセンジャー、Eudora、ウィンドウズ版は前記に加えてインターネットメール/アウトLOOKエクスプレス、Becky!、AL-Mail(16/32)、Winbiffから行える。ただし、アドレス帳の取り込みは、同じ++MailかEudoraからだけだ。

++Mailは、画面や操作インターフェイスが他のソフトとかなり異なるので、まずは体験版で試してみてください。

(編集部)



開発元	イスラエル GEO Interactive Media Group Ltd.
輸入/日本語版製造元	株式会社 トーメンエレクトロニクス
発売元	キヤノン販売株式会社
価格	148,000 円
問い合わせ	043-211-9160
動作環境	ウィンドウズ95が動作する、16Mバイト以上のメモリーとハードディスク空き容量が20Mバイト以上のマシン 漢字Talk7.5以上、16Mバイト以上のメモリーとハードディスク空き容量15Mバイト以上のマシン

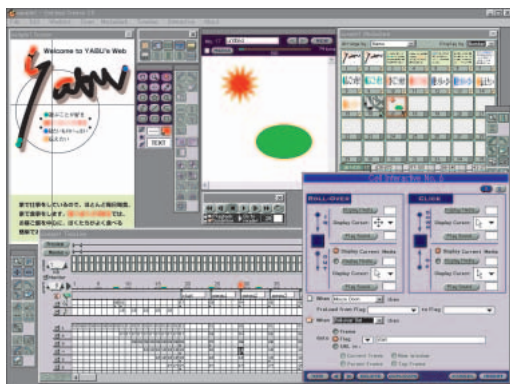
URL <http://www.jp.emblaze.com/>

ウェブ対応マルチメディアオーサリングツール

Emblaze Creator 2.5J

Check!

Director ライクなインターフェイス
Java によるマルチメディアコンテンツ再生
ファイル圧縮によるストリーミング再生



作成したタイトルを再生する「Screen」、アニメーションを作る「TimeLine」、使用するオブジェクトを登録する「MediaBank」と、用途別にウィンドウが分かれています。この画面は、ウィンドウ98でキャプチャーしたものの。

Emblaze Creator 2.5J (以下、EMBLAZE) は、ウェブ専用のマルチメディアオーサリングツール。ビデオやアニメーション、サウンドをストリーミング再生し、インタラクティブに操作できるウェブページが作成可能だ。しかもJava対応であれば、ブラウザにプラグインなどの追加モジュールは一切必要ない。

EMBLAZEの秘密はJavaと圧縮テクノロジー

音楽や効果音が鳴り、アニメーションやビデオが入った動くウェブページを作る方法は、いくつもある。が、そうやって作ったページを表示・再生するには、ブラウザ側にプラグインやActiveXコントロールがいる。しかし、EMBLAZEで作ったコンテンツなら、そういったものはまったく必要ない。インストールしたばかりのまっさらなブラウザでも、作者の意図どおりに表示・再生してくれる。

カーソルを合わせると表示が変わったり、マ

ウスのクリックでアニメーションが再生されるようなインタラクティブな仕掛けを作るのも簡単だ。ビデオやアニメーション、サウンドをストリーミング再生できるのも、EMBLAZEの特徴だ。ストリーミング再生には専用サーバーが必要なのが一般的だが、EMBLAZEならそれも必要ない。

ただしEMBLAZEで作ったコンテンツは、どんなブラウザでも再生できるわけではない。「Java対応であること」がブラウザの条件だ。

コンテンツを作成する側とアクセスする側双方に嬉しいEMBLAZEの秘密は、Javaと圧縮技術、「Play-as-you-stream」と呼ばれる3つの技術にある。EMBLAZEには、ファイルを200分の1以下に圧縮する技術が使われている。一方、Play-as-you-streamは、データを再生しながら同時にダウンロードする技術だ。この2つがストリーミング再生を支え、Javaがこうした技術やコンテンツ全体をコントロールしているのだ。

試用レポート

①HTMLファイルまで自動生成

作ったタイトルをウェブページとしてまとめるまでの作業は、大きく6つに分けられる。まず、素材の作成だ。ほかで作った素材をEMBLAZEにインポートできるほか、画像とテキストはEMBLAZE内蔵のツールでも編集できる。次に「MediaBank」ウィンドウに、使用する素材を登録する。

EMBLAZEでは作成したコンテンツの表示部分を「Screen」といい、ここにMediaBankに登録した素材(オブジェクト)を配置してい

く。Screenが舞台、オブジェクトが俳優や小道具、小道具と考えればわかりやすいだろう。

Screenでオブジェクトの表示位置を決めるのに対して、表示のタイミングは「TimeLine」ウィンドウで設定する。縦軸がオブジェクト、横軸が時間(フレーム)を表し、表示させたいセルにオブジェクトを置けばいい。Screen上のオブジェクトの位置をフレームごとに変えていけば、そのオブジェクトが動き回る仕組みだ。

単純なアニメーションなら、これで完成だ。だが、マウスカーソルが重なると表示が変わったり、クリックするとアニメーションが始まったりといった、インタラクティブな設定がまだ終わっていない。EMBLAZEではこれを「インタラクティブティ」と呼び、特定のフレームまたはセルに対してインタラクティブティを設定できる。メニューから選ぶだけだから設定は簡単だ。JavaScriptでプログラムを書けば、メニューにない設定を加えることもできる。しかし、面倒なのが、EMBLAZE上では、この動作を確認できないことだ。いったんウェブ用のデータに変換してブラウザで確認しなければならないのだ。

コンテンツはこれで完成だが、EMBLAZEで作ったファイルはそのままではウェブページには使えない。最後に「File」メニューにある「Create」でウェブページ用のデータに変換しなければならないのだ。変換すると、HTMLファイルも自動的に作られる。このファイルはごく単純なものだから、手直しが必要だろう。

Java対応ならブラウザだけで表示・再生できるのが、EMBLAZEの魅力だ。だが、Javaは起動するまでに時間がかかる。インターネットエクスプローラはまだいいが、ネットスケープナビゲーターだと待ち時間が辛い。(藪野彦)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp